

「村政への関心」

1 現状

広報誌：隔月発行。議会の報告は広報誌の中で数ページ掲載。

ホームページ：随時更新。広報誌のページはない。Facebook は村のものはないが、地域おこし協力隊のものはある。

情報通信網：幹線のみを光ファイバーで通し、各家庭への支線を無線電波でつなぐ無線 LAN 方式が大半。速度、安定性能が不十分な状態。

ふるさと放送：3チャンネル（定時放送用、ラジオ放送用2）

2 村政への関心を深めるための検討

区分	具体的な方法	メリット	デメリット	課題
広報誌、ホームページ、ふるさと放送等による情報発信の充実	・広報誌の議会及び議員に関する記事掲載の仕方を工夫し、充実させる。	・議員・議会の活動内容などの記事掲載をわかりやすく、あわせて情報量をふやすことで、村民に議員・議会活動をより詳しく周知できる。	・議会としての広報と村としての広報の掲載内容の整理が必要。	・個々の議員の活動内容などをどこまで把握し、公平に掲載できるか。 ・議会・議員による取組との連携を図る必要あり。
	・タイムリーに情報を知らせられるよう、ホームページ、ふるさと放送の内容を充実させる。SNSによる情報発信の検討。	・村政や議会での議論等を広く即時的に周知できる。	・インターネットやFBなどを利用していない村民、ふるさと放送を昼間聞くことができない村民などに情報を伝えられない。	・村民に情報をより確実にタイムリーで広く伝えられる方法の検討が必要。ホームページ、SNS、ふるさと放送では伝えられない村民に伝えるには紙媒体が必要か。

資料 1

区分	具体的な方法	メリット	デメリット	課題
広報誌、ホームページ、ふるさと放送等による情報発信の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・ふるさと放送において議会中継などを再放送する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・村民が聞きたいときにふるさと放送を聞ける環境を作ること、議会での議論やその役割を周知できる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・議会中継の再放送を可能とするにはハード整備が必要。 	<ul style="list-style-type: none"> ・現在ふるさと放送のチャンネルは空きがない状況。光回線敷設などによりチャンネル数を増やすことができれば対応可能か。 ・議会との連携を図る必要あり。
	<ul style="list-style-type: none"> ・随時チラシなど紙媒体による周知を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・インターネットを利用していない村民、ふるさと放送を昼間聞くことができない村民などに情報を伝えられる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・情報伝達の即時性に劣る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・部落便ではタイムリーに配布できず、郵便では経費が増える。効率的な配布方法があるか。
地域担当職員制度の導入	<ul style="list-style-type: none"> ・村内を4ブロック程度に分けて役場各職員が担当する地域を分担する。 ・各ブロックをリーダーのもと職員2～3名程度で担当する。 ・地域での活性化対策等を住民と検討し、補助等を利用する場合は地域担当職員の意見書も併せて提出する。 ・各地域から出てきた要望等を整理し、他の地域からの応援等の必要性などを検討する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・部落会や神祭等に参加するなど地域の要望等を聴く機会が増え、住民ニーズが把握しやすくなる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・職員の業務量が増大するため、現状の職務負担を調整せずに、新たな業務を増やすことは難しい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・制度の導入・実施のための職員体制や業務効率化の検討が必要。 ・議会・議員による取組との連携を図る必要あり。